

令和 7 年度事業計画

学校法人武蔵野大学

1. はじめに

現代社会はAIの進化やDXなどの技術革新、グローバル化、地球温暖化、武力紛争など様々な変化や課題が地球規模で渦巻いており、将来を予測することが困難な時代が続いている。また、国内の私立学校の環境は、急激な少子化が進む中、私立大学を運営する全国567の学校法人のうち100を越える法人が債務超過によって経営困難な状況にあり、統廃合が加速度的に進むことが避けられない情勢である。

こうした中、本法人は、法人経営の持続可能性を確実にすることを目的とし、本法人の目指す姿を明示した「学校法人武蔵野大学グランドデザイン（以下「グランドデザイン」という。）」を令和5年度に策定し、グランドデザインに照らして第一次長期計画（令和2年度～令和11年度）を補正した上で、令和7年度より開始する第二期中期計画（令和7年度～令和11年度）を策定した。

グランドデザインの実現に向け、本法人はどのような状況下であっても、建学の精神「仏教の根本精神である四弘誓願を基礎とする人格教育」に基づき、設置校の特色ある教育研究を積極果敢に展開することで、仏教思想のもつ現代的な意義と可能性を世界に発信することを目指すとともに、ウェルビーイング社会の創造及び形成に貢献する人材を育成、輩出する。

また、益々厳しくなる経営環境のなかで、今後10年50年を展望しながら「法人の持続可能性を確実にする」ため、「改革とチャレンジにより成長する大学になる」を本法人経営の基本的な考え方とし、急速に変化する社会情勢を上回るスピードで適正な改革を確実に遂行する。健全なガバナンス体制の構築と維持、安定的な財政基盤の確立、計画的な施設整備、DXの推進、有為な役員及び教職員の確保・育成、戦略的な広報展開及び透明性のある情報公開等を通じ、教育研究活動等を魅力的に展開し、社会貢献を図りながら、持続可能な法人経営を確実にする。

これらを踏まえ、補正後の第一次長期計画に沿って諸施策を実行しているところであるが、限られた資源を最大限有効に活用していくためには、中長期財政計画に基づき、的確な財政運営を行っていくことが必要である。令和7年度事業計画は、グランドデザイン、補正後の第一次長期計画及び第二期中期計画に基づき、令和7年度に取り組む内容をまとめたものである。

2. 各設置校の教育方針

武蔵野大学 ・大学院	① 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） 武蔵野大学は、ブランドステートメント及び教育目的に定める人材を育成するため、授与する学位ごとに卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定めます。 また、本学で学ぶすべての学生が、多様な人々のなかで「アクティブな知」を獲得し、創造的に思考・表現する力を備えて、世界の課題に立ち向かうため、以下の力を身につけることとし、各学科のディプロマ・ポリシーにて具体的な方針を示します。 1 [知識・専門性]：学びの基礎力を基盤とした専門能力 2 [関心・態度・人格]：他者と自己を理解し、自発的に踏み出す力 3 [思考力・判断力]：課題を多角的に捉え、創造的に考える力 4 [交感力・発信力]：多様な人々のなかで、自らの考えを表現・発信する力
---------------	---

	② 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー） 武蔵野大学は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる力を身につけるために、以下のように教育課程を編成します。 初年次からの全学共通基礎課程「武蔵野 INITIAL」では、視野を広げること、スキルを身につけること、行動力を持つことを学ぶ科目群で、ディプロマ・ポリシーに示す1～4の力につながる学びの基礎力を養います。それを基盤として、学科科目では、専門能力を高めながら、世界の課題に立ち向かうために普遍的に求められる力を身につけられるように段階的、体系的な科目配置を行います。教育課程の実施にあたっては、「問う」「考動する」「カタチにする」「見つめ直す」という4つのステップを繰り返しながらともに学び、成長するという本学独自の学びのスタイル「響学スパイラル」の実践を通じて学びの効果を高めていきます。 ③ 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー） 武蔵野大学は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえた教育活動を実践するため、以下の者を受け入れます。 【求める学生像】 本学の建学の精神、教育目標を理解するとともに、育成する人材像に共感し、教育課程に積極的に取り組む姿勢を持つ者 【受け入れる学生に期待する能力・態度】 1 [知識・専門性] 各学科の教育を受けるのに必要な基礎知識を備えている 2 [関心・態度・人格] 他者と自己を理解し、自発的に踏み出す意欲を持つ 3 [思考力・判断力] 課題を多角的にとらえ、創造的に考える意欲を持つ 4 [交感力・発信力] 多様な人々のなかで、自らを考え表現・発信する意欲を持つ 【入学選抜の基本方針】 ・ 各学部・研究科の教育目的に相応しい人材を多面的に審査・評価する ・ 基礎学力と専門教育に係る教科の理解度、並びに人物の適性等について審査・評価する ・ 学力だけでは見出すことのできない能力や意欲、将来の可能性等を高校在学時の活動状況等から審査・評価する
武蔵野大学 中学校・高等学校	① 育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー） ・ 「明るい知性」と「豊かな情操」とを兼ね備えた「聡明にして実行力のある人物」であること。 ・ 「人の幸せを願う心」「自己中心、自己絶対視を改める心」「正しい判断力」「良き社会人として通用する自立心」をもつ人物であること。 ・ 何事にも真摯に取り組み、社会の幸せを希求する教養溢れる自律した人物であること。 ・ 論理的思考力を身に付け、課題を正しく理解して解決を目指して挑戦できる人物であること。 ② 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー） ・ 各教科とも学びの基盤となる「知識と技能」を十分に習得できるように編成する。 ・ Howに留まらず Why を重視する学びを実践、論理的思考力を育成する。 ・ 宗教教育を拠り所の一つとし、課題解決のための探究活動を実施する。 ・ 探究活動について、課外活動も積極的に実施する。

	③ 入学者の受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー） ・ 本校の教育を受けるに足る資質と能力が十分にある生徒。 ・ 人格形成のための六つの徳目「布施・持戒・忍辱・精進・禅定・知恵」の実践に共感する生徒。 ・ 常に挑戦し続け、変化を恐れず、社会貢献するために自立する気持ちのある生徒。
千代田中学校・高等学校	① 育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー） ・ 自他ともに心豊かに生きることの出来る社会の実現を希求する人物である。 ・ 真のオーナーシップとグローバル性を持つ人物である。 ② 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー） ・ 人生の目的 (Purpose)を見つけるため、PBL／SBL の学習を通じて、Why にこだわる学びを実践し、実社会で生きて働く知識の習得と活用を目指す。 ・ 多様性 (Diversity)を重んじ、相手の考えを尊重できる真のコミュニケーション力を養う。そのために 4 技能を意識し、国際社会で通用する語学力を育成する。 ・ 挑戦 (Challenge) を楽しみ、失敗から学び続ける姿勢を育成する。 ・ データを的確に読み、論理的に物事を考える姿勢を育成するため、ICT や AI を活用した最先端の学びを追求する。 ③ 入学者の受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー） ・ チャレンジすることを楽しみ、世界に貢献しようとする姿勢を持つ人 ・ 相手を否定せず、多様性を認めることが出来る人 ・ なぜ学ぶのかという目的意識を持ち、高い学力と広い知識や教養を身に付けるために意欲的に取り組む人 ・ 本校の教育内容を理解し、入学後も勉学に励み、世界に貢献する姿勢を持つ人 ・ 様々な活動（生徒会活動、研究活動、資格取得、課外活動）に積極的に参加し、入学後もそれらの活動の成果が期待できる人
武蔵野大学 附属幼稚園	仏の心を大切にし感謝のできる子どもに 健やかな心と体をもつ子どもに 豊かな感性をもつ子どもに 意欲的に遊ぶ子どもに 友だちと認め合う子どもに 具体的活動 ① みんなで仲良く仏様の教えを身につける。 仏教行事や伝統行事などを通じて、慈悲の心、利他の心を育み、あたりまえの暮らしを大切に、自然と感謝の思いで手を合わせる子どもを育てます。 ② 感動し、想像し、自由に表現する力を育てる。 豊かな自然や動物との触れ合いから、優しさや思いやり、いのちのすばらしさを学びます。 ③ 仲間とともに創り出し、一緒に育ちあう。 思い切り体を動かしながら、バランス感覚や持久力、集中力を育てます。 ④ 好奇心を持ち、新しい世界を知り、未来をひらく心を育む。 遊びや様々な体験から新しい世界を発見し、探求し続ける心を育てます。

武蔵野大学 附属有明こ ども園	「響き合う保育」の教育理念の下、一人ひとりの個性を大切にし力を発揮させながら、子ども同士、子どもたちと保育者、保護者が関わり合い育ち合うことを目指す。具体的には以下の3つの取り組みをとおして、小学校からの学びに主体的に取り組む姿勢と、予測困難な時代に必要な「生きる力」の基礎を育む。 ① 思う存分遊び込み、生きる力を身に付ける 自ら「遊び込む」ことで、ものの不思議さに気づき、好奇心・探究心を育む。また、工夫して遊ぶ楽しさや達成感を味わうことが自信につながり、“生きる力”の根源でもある自己肯定感を高める。 ② 本物に触れ、豊かな感性を育てる 武蔵野大学各学部と連携して、学内外の各分野の専門家による“わくわくプログラム”で本物に触れる体験を通して、豊かな感性を育む。 ③ 仏の心を大切に 浄土真宗本願寺派の大学附属こども園として、生命の尊さに気づき、万物の恵みに感謝できる、心優しい子どもを育てる。
-----------------------	---

3. 各設置校及び法人の取組

(1) 武蔵野大学・大学院

チャレンジA ウェルビーイング社会の創造に貢献する Creative な実践者の輩出

全学のアセスメント・ポリシーや卒業満足度アンケート、D P、ルーブリック評価、キャリア教育科目等、現行の指標、評価基準、教育内容についての現状分析を行い、今後の方向性や方針について検討を行う。また、卒業生在籍企業との接触を強化すると共に、卒業生 S C Aに関する情報の精査、分析等を行い卒業生との連携体制構築に向けた検討を開始する。

チャレンジB スチューデント・サクセスを実現する響創的な学修の推進

建学の精神を涵養する自校教育の在り方、建学関連の取組活性化について検討を進めるとともに、響学スパイラルに基づくカリキュラムの再構築、授業形態の見直しのための枠組み、A I活用等の先進的な教育手法の拡充と展開、留学等の海外経験の促進策を具体化する。また、入学前・初年次教育の実効性を高める枠組みを策定するとともに、スチューデント・サクセス実現のための学生支援体制の構築を進める。

チャレンジC M Uのブランドに共鳴する学生の安定的な確保

一般選抜の入試制度立案等と併せて、総合型選抜・指定校推薦の入試制度や接触経路別歩留率等の検証を行う。スチューデント・サクセスを基調とした広報の展開としては、モデル学生の選定や響創的な学修メソッドの取組事例の選定を行う。また、高校・予備校・保護者に向けた広報活動を定着させる。入学定員比 100%の入学者数を目指して、入試別等の入学者数の計画、検証を行う。

チャレンジD 多様な学生・教職員が集い、Creative な実践者を育む体制の整備

世界のウェルビーイング向上に寄与する大学としてD E Iを推進するため、基盤となるセンター設置の検討などを進める。多様な学生の活動支援をより積極的に行うため、学生生活支援セン

ター設置の検討をはじめ、留学支援・留学生支援の施策決定などを実施する。教職員の多様性の促進のため、働きやすい環境整備・基幹教員制度導入・海外大学とのクロスアポイントメント契約体制の準備に取り組む。キャンパスにおける学生の居場所の充実と多様な学生への配慮に向けて、キャンパス整備の体制づくりの検討を行う。

チャレンジE 新たな教育市場と価値創出

グローバル市場における価値創出に向け、知財ポリシー策定や共同研究プロジェクト等の開催に係る枠組み作り、諸外国における教育ニーズ調査等を通して、市場開拓の方向性を策定する。

また、通信教育の新コース設置準備のほか、生涯成長学習講座の新システム稼働、学部学科・研究科の改組に向けた課題整理、教室リソースに依存しない教育形態に係るあるべき姿の検討等により、新たな学びを提供するための土台作りに着手する。

各学科の事業計画については、学部等運営会議等を活用し進捗の把握・支援体制を整備する。

(2) 武蔵野大学中学校・高等学校

各教育プログラムの充実化に向けて、社会貢献に関わる教材発掘や指導案の作成、生徒の自学自習力の習慣化を促す学習システムの構築、中学理科授業における実験実習の積極導入に取り組む。教員の学級運営力・授業力向上のために、十分な研修や授業研究を取り入れ、教員の育成と能力の研鑽を進める。学外広報の強化を図り、募集定員の充足を目指す。

(3) 千代田中学校・高等学校

中学校と高等学校の接続を踏まえた新コースとカリキュラムを実施する。外部機関、外部人材との連携を強化し教科指導力の向上を図る。教員の授業力と協働性の向上のために、更なる授業研究や研修を進め、教員の育成と組織体制を確立する。戦略的な広報活動や研究活動等に必要な施設を整備していく。

(4) 武蔵野大学附属幼稚園

社会・地域ニーズを捉えた新たな特色ある教育プログラムの構築及び展開、教育学部幼児教育学科との更なる連携、並びに預かり保育や課外活動等の充実により、保護者及び地域の方々の幼稚園への満足度、信頼度の向上を図る。園生活・保育の見える化及び広報発信を強化し、本園の特色を分かりやすく園内外に積極的に発信する。

園舎内部の改修や遊具の更新により教育環境を整備し園児が快適かつ安心安全に過ごせる環境の充実を図る。

(5) 武蔵野大学附属有明こども園

園児募集は1号3歳児の定員60人確保を目標として、継続的に取り組む。また配置基準の見直しにより増える必要な人材を確保する。

教育・保育面では特長であるわくわくプログラムを拡充するとともに、地域のニーズに合わせて担当教員等と連携して内容の見直しを図る。

(6) 法人

法人の絶え間ない改革と安定した成長・発展を支える「法人ガバナンスの改善・強化」及び「内部統制の整備」に引き続き取り組み、令和7年4月施行の改正私立学校法に対応する。併せて、改革と発展の原動力として「教学ガバナンスの再構築」及び「法人・教学のD X化」を軸に、以下を重点として取り組む。

- ① 建学の精神の堅持及び未来への継承を支える法人・教学一体の推進体制を構築する。
- ② 私立学校法改正に対応した法人ガバナンスの改善・強化と大学・中高設置校の教学ガバナンスの再構築に向けた関連規程の整備・検証を行う。
- ③ 事務局各部署の適正人員配置に基づく長期人事計画を策定・運用し、組織の活性化を図る。また、資格別研修プログラムの体系化・制度化により職員の能力向上を図る。
- ④ 法人広報戦略に基づく広報展開及び広報体制の強化により、法人広報と入試広報を一体的に推進し、重要施策の選択と集中により重点的かつ効果的な広報を展開する。
- ⑤ S I C（縁バースキャンパス）や武蔵野大学カンファ・ツリー・ヴィレッジ・センター設置等の100周年記念事業を起点に、次の10年50年に向けた土台を築くため、ステークホルダーを巻き込んだインフラ整備や各種プロジェクトの発展的な事業を検討・実施する。
- ⑥ 同窓会データベースの安定的な運用及びシステムの見直しにより、同窓会の活性化に向けた情報発信力を強化する。
- ⑦ 長期財政計画（10年間財政計画）の継続的な更新並びに資金運用の多様化及び固定資産の有効活用により、安定的な財政基盤を確立する。
- ⑧ 学校法人武蔵野大学危機管理マニュアルの更新・適切な周知により、危機管理の有効性を確保した災害対応力を向上させる。
- ⑨ 武蔵野キャンパスマスタープラン、有明キャンパス設備更新プラン、千代田キャンパス建替スキーム等を検討し、長期施設設備等整備計画に基づく計画的な施設等整備を進める。
- ⑩ 「学校法人武蔵野大学D X推進基本計画」に基づき、各部門のD X化を着実に推進する。

4. 各設置校及び法人の事業計画 【武蔵野大学・大学院】

	評価指標	令和7(2025)年度 事業計画
第一次長期計画推進事項①：チャレンジA ウェルビーイング社会の創造に貢献するCreativeな実践者の輩出		
第二期中期計画：スチューデント・サクセスを実現した人材の輩出		
事業計画（2025～2029年度）：スチューデント・サクセス及び社会で求められる能力をふまえた全学・学科3ポリシーの構築		
全学・学科3ポリシーの再構築	スチューデント・サクセス及び社会で求められる能力の要件等について検討し再構築の方向性を策定	
3ポリシーに対応したアセスメント・ポリシーに基づくアセスメントの実施	現行のアセスメント・ポリシーに係る課題等を整理・分析し、再構築の方向性を策定	
事業計画（2025～2029年度）：満足度・推奨度が高く、成長実感が高く、自信をもった人材の輩出		
卒業時アンケートにおける満足度、推奨度、自信、各成長実感の各設問における肯定的回答の割合	卒業時アンケートの各項目について回答傾向を分析し、施策の方向性を策定	
事業計画（2025～2029年度）：希望した進路・就職・資格取得・受賞の実現		
進路先満足度率（卒業時アンケート調査）	キャリアセンター運営委員会及び教育改革推進会議にて、具体的な施策を策定	
キャリア教育科目	キャリアセンター運営委員会及び教育改革推進会議にて新カリキュラム案を策定	
第二期中期計画：出口での質保証の徹底と学修成果の可視化・利活用		
事業計画（2025～2029年度）：世界のウェルビーイングに貢献する人材の指標化（DP2の再構築）とそれに基づく質保証の徹底		
建学の精神と紐づいたDP2の再構築	世界のウェルビーイングに貢献する人材像の定義等について検討し再構築の方向性を策定	
事業計画（2025～2029年度）：未来の世界を主体的に創造する能力（アクティブな知：DP1・DP3・DP4）の修得		
DP1・DP3・DP4の再構築	未来の世界を主体的に創造する能力の定義等について検討し再構築の方向性を策定	
事業計画（2025～2029年度）：学修成果（ポートフォリオ、卒論、卒業制作、学会発表、作品など、他者に説明できる自身の能力・自信の根拠となるもの）の可視化		
初年次主要科目、及び、卒業論文・卒業制作におけるルーブリックによる成績評価	ルーブリックの作成・運用についての指針を策定し、教育改革推進会議を経て各学科に展開	
SRMを利用した学修成果の管理・活用	学修成果ポートフォリオの設計とSRM連携のための課題の整理	
第二期中期計画：社会で活躍する卒業生との連携促進		
事業計画（2025～2029年度）：本学に関する企業等の理解促進		
卒業生在籍企業接触件数	企業との情報交換会及び名刺交換会への参加強化	
事業計画（2025～2029年度）：卒業生の組織化と活躍の把握及び卒業生の学びの支援体制の構築		
組織化された学生キャリアアドバイザー（卒業生SCA）の人数	SNS等を活用した、卒業生SCAのコミュニティ作成	
在学生への支援・交流イベント実施件数	イベント案の策定及び実施	
卒業生に対する学内コンテンツとの連携支援	卒業生からの問い合わせの把握及び卒業生向けコンテンツを行う部署との情報交換と連携施策の策定	

【武蔵野大学・大学院】

【武蔵野大学 六学院】

	評価指標	令和7(2025)年度 事業計画
第一次長期計画推進事項②：チャレンジB スチューデント・サクセスを実現する響創的な学修の推進		
第二期中期計画：建学の精神を具現化する人格教育の推進		
事業計画（2025～2029年度）：各教職員を通しての人格教育の推進		
建学の精神を实践する自校教育の構築	自校教育のあり方を検討するワーキンググループの立ち上げ、FD及び正課内外の施策内容・実施計画を策定	
事業計画（2025～2029年度）：大学礼拝、新入生築地参拝等、全学的な建学関連の取り組みの一層の充実		
大学礼拝の参加人数	大学礼拝の活性化に向けた現状分析と課題の抽出、施策の検討・策定	
新入生築地参拝のアンケート満足度	毎年度の満足度90%以上を持続するための企画の検討・実施	
事業計画（2025～2029年度）：仏教副専攻の全学的な推進		
仏教副専攻の修了者数（令和9年度以降）	履修モデル・カリキュラムマップ等の作成・公開、学内外への情報発信	
第二期中期計画：学修ジャーニーと響学スパイラルに基づくカリキュラム構築と授業設計		
事業計画（2025～2029年度）：学修ジャーニーと響学スパイラルを活用した豊かで生き生きとした教育の設計		
スチューデント・サクセスを基軸にしたカリキュラムの再構築と授業形態の抜本的見直し	響学スパイラルに基づくカリキュラムの再編、授業形態の見直し（オンラインの効果的な活用）に向けた課題の整理、施策の決定	
響学スパイラルに沿った授業形態を実践する学修環境の充実	響学スパイラルに基づく学修環境モデルの展開に向けた課題の整理、実施形態の検討、施策の決定	
事業計画（2025～2029年度）：学力格差の拡大に対応した入学前・初年次教育の充実と学修支援		
初年次の学科基礎科目（学科で対象科目を設定）の授業理解度（授業リフレクション）	教育改革推進会議にて、入学前・初年次教育の目標設定とPDCAに基づくアクションプランの枠組みを策定し、各学科に作成を依頼	
事業計画（2025～2029年度）：AI、ICTなどの教育への効果的な活用		
AI副専攻（副専攻AI活用エキスパートコース）を修了しAIを活用できる人材輩出の拡大（年間の全修了者数）	教員採用により体制強化するとともに実践プロジェクト科目の専任に対する非常勤比率を現状の1:1より高める指導方法の確立	
新聞などのメディアや学会での発信による副専攻のAI活用の先進性についての外部からの認知度向上（年間のメディア・学会での発信件数）	AI副専攻が達成したことについてのプレスリリース、履修生の実践プロジェクト科目の学会発表の実施	
先進的技術（AIツール等）や手法（サービスデザイン等）の主専攻学科授業（卒論やゼミ等）での連携拡大（連携事例数）	主専攻学科と協力して履修生の卒業研究やゼミとの連携事例やツール活用事例の実績の蓄積	
事業計画（2025～2029年度）：各学科でのグローバルな課題解決への取組		
卒業時アンケートでの在学中の留学経験比率（留学・早期からの海外経験。オンライン留学、本学の制度以外を含む）	現行施策の課題の整理、留学・海外研修等の参加促進に向けた施策の検討・策定	
日本語教育支援に関する全学的なコース（副専攻）の開設	日本語教育支援副専攻（仮）の育成像の具体化、D P・C Pに相当する内容、運営体制案の検討・策定	

【武蔵野大学・大学院】

	評価指標	令和7(2025)年度 事業計画
第一次長期計画推進事項②：チャレンジB スチューデント・サクセスを実現する響創的な学修の推進		
第二期中期計画：スチューデント・サクセスを実現するための学修支援・キャリア支援・生活支援の構築		
事業計画（2025～2029年度）：学修ジャーニーに基づく学修と学修支援を支えるSRMの導入		
	スチューデント・サクセス実現のためのSRMの全学導入	学修支援の課題を踏まえたSRMトライアル（2年目）の実施と効果検証、改修の検討・実施
	教学システムのリプレイス推進	委託先とのシステム協議・検討により、要件定義・設計・構築・テスト着手実施
事業計画（2025～2029年度）：教育と連動した学生支援体制の構築		
	スチューデント・サクセス実現のための学生支援体制の整備	アドバイザー制度をはじめ学生支援体制の再構築に向けた現状分析と課題の整理、個別最適な学生支援のための指針の検討・策定
事業計画（2025～2029年度）：IRデータの分析に基づく、教育指導、施策の検討実施		
	スチューデント・サクセスの達成に向けたIRデータ分析に基づく教育指導ガイドライン等の策定	スチューデント・サクセスに関わる情報収集及び分析による全学展開の方向性策定

【武蔵野大学・大学院】

	評価指標	令和7(2025)年度 事業計画
第一次長期計画推進事項③：チャレンジC MUのブランドに共鳴する学生の安定的な確保		
第二期中期計画：APを満たす学生を確保するための入試改革の推進		
事業計画（2025～2029年度）：一般選抜受験者を増やすための施策の検討実施		
データ分析・検証を反映した入試制度及び実施体制の見直し・改善	入試データと入学後データの実合と傾向把握	
一般選抜型の総志願者数	一般選抜型入試制度（日程・日数、会場、学内併願、奨学金等）の立案	
事業計画（2025～2029年度）：総合型選抜、指定校推薦等の改革推進		
総合型選抜・指定校推薦の入試制度の見直し・改善	学科別入試制度の構築に向けた総合型選抜・指定校推薦で獲得したい学生像の検討	
総合型選抜・指定校推薦入学者の入学後1年次と3年次後期総合GPA平均値	入試区分別入学者の成績確認	
事業計画（2025～2029年度）：入学定員に基づく入学者数管理の徹底		
SRM活用による志願者別歩留率の設定と合否判定の精度向上	接触経路別歩留率の検証	
大学、学科毎入学定員比	①学科別の入試区分、入試制度毎の入学者数の検証（R7年度入試） ②R8年度入試制度の立案	
第二期中期計画：スチューデント・サクセスを基軸とした入試広報の展開		
事業計画（2025～2029年度）：学生ストーリー（ジャーニー）の効果的な広報展開		
年間取材学生数・年間一元管理データベース登録数	スチューデント・サクセスの推薦要件決定と、学科推薦をもとに適合する学生の選定	
年間学生起用回数	スチューデント・サクセスを実現した学生を学科ウェブサイトや広報媒体物に掲載	
事業計画（2025～2029年度）：響創的な学修メソッドについての広報展開		
響創的な学修メソッドを授業等で展開している各科目の広報素材の確認、決定、周知	代表的な科目の確認と広報素材作成	
事業計画（2025～2029年度）：中学校・高校、予備校、受験生保護者に対する戦略的な広報展開		
関係強化校数	対象校選定と訪問活動等の実施	
高校、予備校、保護者に対する入試広報施策の強化及び実施	高校、予備校、保護者に対する入試広報施策の立案と実行	
高校、予備校、日本語学校のデータベース構築、一元管理	接触校を一元管理するシステムの契約、運用	
第二期中期計画：戦略的な中高大接続策の検討と実施		
事業計画（2025～2029年度）：同一法人内の中高との接続強化		
同一法人校学校推薦型の志願者数	同一法人校学校推薦型選抜の立案と実行	
広報企画数、企画参加者数	同一法人校対象の対面広報に関する年間予定を立て、1件新規実施	
事業計画（2025～2029年度）：龍谷総合学園系列校との接続強化		
龍谷総合学園の高校からの入学者数	①系列校学校推薦型選抜の立案と実行 ②龍谷総合学園対象の奨学金制度の検討	
強化校選定と施策の実施	学内の意向調整と対象校ヒアリング	
事業計画（2025～2029年度）：本学の教育コンテンツを活かした戦略的な中高大接続施策の検討実施		
THE世界大学ランキング日本版（教育充実度）の順位	高校教員を対象とするワークショップの開催等、本学の教育に係る評価を高める施策を企画・実施	
中高大接続プログラム実施校数	中高大接続の実施実績に係る情報を発信するとともに、実施校拡大の戦略を立案・実行	

【武蔵野大学・大学院】

	評価指標	令和7(2025)年度 事業計画
第一次長期計画推進事項④：チャレンジD 多様な学生・教職員が集い、Creativeな実践者を育む体制の整備		
第二期中期計画：D E I の推進		
事業計画（2025～2029年度）：ジェンダーの多様性と平等を意識した教育と大学運営		
D E I 推進のための組織体制整備	①D E I 推進センターの目的及び運営方針、センター長及び構成員の検討を実施 ②D E I 推進センターの事業計画の策定	
事業計画（2025～2029年度）：女性管理職の比率向上		
女性管理職比率	課題整理及び意識調査を実施し、施策の方向性を検討	
事業計画（2025～2029年度）：障害者差別解消法に基づく就学上の合理的配慮の適正化		
合理的配慮の実施体制の強化及び質向上	①合理的配慮に関する自己点検評価の実施 ②合理的配慮に関する学内体制強化施策を検討	
第二期中期計画：多様な学生への支援体制の整備		
事業計画（2025～2029年度）：授業のみならず、学則や各部門での多言語対応の推進		
学則及び各規程等や、学生への情報発信（H P ・教務システム等）、窓口対応の多言語化整備	①留学生のニーズに関する調査（アンケート）実施 ②広報、教務システム等の他言語化対応実施状況の調査	
事業計画（2025～2029年度）：留学生支援及び海外への留学支援の充実		
卒業時アンケートにおける留学生満足度	①留学生のキャンパス生活における居場所・交流に関するニーズ調査 ②キャリア選択における課題の抽出 ③留学生と日本人交流イベントの実施継続及び効果測定	
事業計画（2025～2029年度）：学生生活支援に関するセンター設置		
学生活動支援センター（仮称）の設置と運営	①学生活動支援センター（仮称）の設置検討を実施 ②学生活動支援センター（仮称）の方針及び構成員の検討を実施	
事業計画（2025～2029年度）：スチューデント・サクセスを実現する教職員の支援体制及び評価の仕組みの整備		
多様な学生の取組を支援する、教職員の表彰制度を含めた体制の再構築	①教職員の学生支援についての現状調査実施 ②他大の取組に関する情報収集 ③アドバイザー制度を含む学修支援制度の再構築に併せた学生生活支援の施策検討	
第二期中期計画：教職員の多様性の促進		
事業計画（2025～2029年度）：働き方改革の検討実施		
多様な教職員が働きやすい環境整備	①教職員の働き方に関する現状分析 ②多様な教職員の配慮に関する現状分析	
事業計画（2025～2029年度）：大学設置基準等の改正への対応		
基幹教員の導入に対応した学内体制の整備	基幹教員制度導入に必要な規程及び運用体制を整備	
事業計画（2025～2029年度）：海外で学位取得した教員の採用促進		
海外で学位取得した教員が働きやすい環境作り	海外大学からの教員招へいをする際の課題検証及び必要体制の検討	

【武蔵野大学・大学院】

	評価指標	令和7(2025)年度 事業計画
第一次長期計画推進事項④：チャレンジD 多様な学生・教職員が集い、Creativeな実践者を育む体制の整備		
第二期中期計画：キャンパス空間の整備と充実		
事業計画（2025～2029年度）：多様性に配慮したキャンパス空間の整備と活用		
多様な学生に寄り添ったキャンパス環境整備	①他大学等のキャンパス整備状況の調査を実施 ②多様な学生に配慮したキャンパス環境づくりの体制検討を実施	
事業計画（2025～2029年度）：学生のキャンパスにおける居住性の向上		
キャンパスライフを豊かにする環境整備	①他大学等のキャンパス環境の調査を実施 ②学生の課外活動等活動空間・居場所づくりの体制検討を実施	

【武蔵野大学・大学院】

	評価指標	令和7(2025)年度 事業計画
第一次長期計画推進事項⑤：チャレンジE 新たな教育市場と価値創出		
第二期中期計画：グローバル市場における価値の創出		
事業計画（2025～2029年度）：グローバル市場で競争力をもつ研究領域の拠点化		
特許権など知的財産の出願件数	産官学連携・研究推進センター運営委員会にて、研究成果を実用化するための知財ポリシー及び知財戦略計画を策定・実行	
事業計画（2025～2029年度）：新たな社会課題解決に向けたグローバル・オープンイノベーション（による研究）の推進		
国内外の研究機関や企業との社会的課題に対する共同研究・シンポジウム等の開催	産官学連携・研究推進センター運営委員会にて、共同研究プロジェクト・シンポジウムに他の研究機関や企業が参加できる枠組み作り	
事業計画（2025～2029年度）：アジアの仏教国などの海外市場の開拓		
アジアにおける教育コンテンツ等の市場開拓件数	アジア諸国における教育コンテンツのニーズ調査を実施し、市場開拓の方向性を策定	
第二期中期計画：時代、社会のニーズを先取りした新たな学びの提供		
事業計画（2025～2029年度）：社会人の新たな学びの提供		
通信教育部学生数（正科+科目等）	社会人の学びやすさを訴求する広報資材・入学希望者向けイベント整備及びメールマーケティングの実施	
事業計画（2025～2029年度）：地域社会との連携強化による多様な学びの場やコミュニティの創出		
生涯成長学習講座 延べ参加者数	新システムを稼働させて、講座受講の利便性を向上	
事業計画（2025～2029年度）：学部学科・研究科等の改組や通学・通信の一体化を見据えた教育組織の検討		
学部学科の改組	学部学科の課題整理及びニーズ調査を実施し、改組の方向性を策定	
研究科及び研究所等の設置・統廃合	研究科等の統廃合について具体的な施策を検討・決定	
通信・通学の垣根を超えた学びの仕組み	他大学等の情報収集及びニーズの調査を実施し、学びの仕組みの方向性を策定	
事業計画（2025～2029年度）：メタバースキャンパス、オンラインコンテンツ等を活用した教室リソースに依存しない教育形態の検討		
授業目的による教室使用率	現状の課題整理及びあるべき姿の検討を実施し改革の方向性を策定	
第二期中期計画：通信教育部の新たな教育システムの構築		
事業計画（2025～2029年度）：建学の精神に基づきウェルビーイングな社会の構築に資する知識・教養を得られる学修機会の提供		
学修方法の改革とカリキュラムの改定	①カリキュラム構成の見直し ②科目分割・学修方法・学期科目の設定	
事業計画（2025～2029年度）：円滑に学修を開始・継続し、卒業できるための学修支援の提供		
卒業率	①AIチャットの運用の中間検証及び改善 ②学修進度の自己管理支援及び学修コンシェルジュ等の導入準備	
事業計画（2025～2029年度）：「つながり」を感じられるプラットフォームの提供		
卒業時アンケート満足度	縁バスキャンパスでのイベントを活性化させ、地域別・実習科目別等での学生交流を促進	
第二期中期計画：各学科等における価値（ブランド）の創出		
事業計画（2025～2029年度）：各学科等における特色ある取組みの展開による価値の創出		
各学科が自ら行った点検・評価を基に、学内会議等で精査した各学科中期目標の達成率	学部等運営会議を活用し各学科の計画進捗を把握のうえ適切に推進を支援	

【武蔵野大学中学校・高等学校】

	評価指標	令和7(2025)年度 事業計画
第一次長期計画推進事項①：仏教精神に基づく「人格の向上」を教育活動の中心に据える		
第二期中期計画：「世界の幸福とは何なのか」を考え続けるために必要な教育プログラムの充実		
事業計画（2025～2029年度）：教材の見直しと選定		
社会貢献に関わる教材発掘・「人格の向上」に繋がる共通の指導案の完成（国・英・社・家・宗において指導案作成、授業実施、改善点克服）	教科会を通じて、貧困・紛争・福祉などの具体的問題や社会貢献活動の意義、または偉人の業績など生徒の心に迫る教材を選定し、該当教科及び実施学年を確定	
生徒会（紫紅会）と連携した社会貢献活動への参加率	ボランティア委員会の設置や部活の地域清掃など、ボランティア活動計画を作成	
事業計画（2025～2029年度）：研究活動等における指導力向上		
授業アンケートによる生徒満足度	授業評価システムの導入と、評価結果の客観的な分析とアクションプランの作成	
全教員がA L 授業法研修を受講	ワークショップ研修を実施し、HRで使えるアサーショントレーニング法を学び実践	
事業計画（2025～2029年度）：施設・設備の見直し		
自律、自走する力と自学自習力育成を目的とした自習空間（自習室及び自習エリア）の創出	選択教室を放課後自習エリアに転用し、可能な限りにおいて魅力的な自習空間を創出するため、旧図書館の活用等を検討	

【武蔵野大学中学校・高等学校】

武蔵野大学中学校・高等学校

	評価指標	令和7(2025)年度 事業計画
第一次長期計画推進事項②：附属校としての役割を果たしながらも、グローバル・サイエンス教育の充実を図り、21世紀において先進的な教育・学校事例を社会に提供し続けるリーディングスクールとして変革し続けていく		
第二期中期計画：真なるグローバル人材育成のための教育プログラムの充実		
事業計画（2025～2029年度）：コースの再編と具体的なカリキュラムの構築		
生徒の自習室の恒常的利用率 （自学自習力の習慣化）	生徒・保護者へメタ認知力向上を大目的とした自学自習システムを訴求、またその一環である自習室利用を促進し目標値を達成	
教員の基本スキームの定着率 （教員の教育力向上）	教科主任会議等にて、授業の基本スキームの徹底を促し、授業アンケートにおいて検証	
事業計画（2025～2029年度）：国公立・最難関私立及び海外大学への指導強化		
国内難関大学合格者数	学年・コース別の進路希望の可否判定会議を実施。その状況から当面のGTZの底上げの目標値を共有	
海外大学進学者数	PBLコースの留学希望者の増加促進	
事業計画（2025～2029年度）：教員の英語四技能への対応と各種試験の研究		
「使える英語」の習得を目的とした言語活動中心の授業プログラムの完成	教科会が主体となって本テーマに即した授業公開を実施し教科会で報告	
英語科教員の英検1級レベルのスコア取得率	期末に教科主任は受検結果を取りまとめて報告し、教員の現状のスコアを把握	
事業計画（2025～2029年度）：各授業の品質と大学進学指導力の向上		
主要5教科教員の2学部以上の入試問題解答率	夏季・冬季休業中に任意の大学の任意の学部学科の入試問題を所定のノートに解答し、採点したものを提出	
事業計画（2025～2029年度）：短期・長期留学制度の充実と海外留学生の受け入れ促進		
派遣留学または短期留学先国数	令和8年度夏季実施を目指して実施策の検討・策定	
海外留学生の受け入れ人数	受け入れ生徒の状況に応じた継続的且つ安定した対応	
事業計画（2025～2029年度）：校内行事の整理・削減と一貫性の構築		
生徒アンケートによる目標達成度 （生徒の各行事の目標理解）	生徒に「行事満足度調査」を実施し現状把握	
学校行事の目的設定率	各行事の目的に建学の精神（高楠先生の五戒や六波羅蜜の教え）の実践を明文化	
事業計画（2025～2029年度）：武蔵野大学との高大接続の推進		
高大連携プログラムの実施	大学と協議をし高大連携プログラムの具体案を作成し、実施	

【武蔵野大学中学校・高等学校】

【武蔵野大学中学校・高等学校】

	評価指標	令和7(2025)年度 事業計画
第一次長期計画推進事項②：附属校としての役割を果たしながらも、グローバル・サイエンス教育の充実を図り、21世紀において先進的な教育・学校事例を社会に提供し続けるリーディングスクールとして変革し続けていく		
第二期中期計画：サイエンスを身につけるための教育プログラムの充実		
事業計画（2025～2029年度）：理数系教科の指導力の向上		
中学1、2年の実験授業の完成度	令和7年度後期からの実現に向け理科科で本格的に実験授業の協議を進め、実験実習の年間計画を作成	
事業計画（2025～2029年度）：最先端コンテンツを導入した授業実施のための外部企業との連携		
中学における学年テーマに応じた外部企業・外部講師との連携授業の実施件数	外部企業や外部講師を招致し、教員と連携した授業を実施	
外部授業評価ツールによるPBL的授業の成果の可視化、言語化のシステム完成	①外部授業アンケート採用の検討を実施 ②検討が不調の場合、現在の校内独自アンケートを続ける。但し、質問項目は学校目標を考慮したものに全面的に改定	
事業計画（2025～2029年度）：外部学力テスト結果の分析及び授業での検証		
外部学力テスト結果の分析システムの完成	全体会は進路指導部、コース別は各コース長が主体となって、学年主任と協力して進行。毎回観点を決めて分析しデータを蓄積	
事業計画（2025～2029年度）：学級運営力・授業力向上に向けての各種研修会への参加		
メタ認知能力の育成のため、アサーション研修を開催	AL研修と併行してクラス経営や生徒理解力向上の手段としてアサーションに特化して研修を実施	
受験教科担当の高校教員の予備校主催研修の受講システムの完成	過去3年間で未受講の教員を優先して対象者を期初に決定	
事業計画（2025～2029年度）：先進的な教育のためのハード・ソフトの構築		
全教員へ教育用端末配布	ICT関連備品整備 (新任教員、講師及び故障時対応用iPad購入)	
事業計画（2025～2029年度）：国公立・最難関私立への指導ができる体制づくり		
マッチング会議の実施	①高3は推薦会議前・12月・1月 ②高2はコース長、学年主任の判断で後期中の適当な時期に実施	
事業計画（2025～2029年度）：ICT教育のための継続的な学習環境の整備		
特定のICTツールを十分に活用した授業デザインができる教員	担当教員(管理職を含む)を決め、ロイロ認定ティーチャー認定要件の確認から初め、ICTツールを活用した授業デザインができる教員の創出のための年次計画を作成	
事業計画（2025～2029年度）：武蔵野大学との高大接続の推進		
高大連携プログラムの実施	大学と協議をし高大連携プログラムの具体案を作成し、実施	

【武蔵野大学中学校・高等学校】

	評価指標	令和7(2025)年度 事業計画
第一次長期計画推進事項③：目的達成のために必要な教育コンテンツ・スキーム・人材の開発・育成を進め、募集定員の充足、研究成果をはじめとする生徒の活動実績、大学合格実績の創出と、その実践の頒布		
第二期中期計画：教員が改革推進に対して一致団結して取り組む体制の確立		
事業計画（2025～2029年度）：人材活用による組織力の向上		
人員計画に基づく教員の確保		他校の状況等を調査し、教員採用の基準の整備
事業計画（2025～2029年度）：プロジェクトでの課題処理による複数の次世代リーダーの育成		
各分野における次世代リーダーの育成につながる取組として役職配置の検討システムの確立		初任者（1、2年教員）・中堅教員（10年）研修計画を作成・実施
事業計画（2025～2029年度）：学外広報の強化による志願者増		
募集定員の充足		LINEの登録者に月に1回程度の学校情報の配信を実施
志願者数		LINEの登録者に月に1回程度の学校情報の配信を実施
第一次長期計画推進事項④：組織の活性化と職場環境改善の推進		
第二期中期計画：生徒増に対応した教職員の充実及び適切な配置		
事業計画（2025～2029年度）：共学進学校としての進路指導ができる専任教員の充実		
人員計画に基づく教員の確保		他校の状況等を調査し、教員採用の基準の整備
事業計画（2025～2029年度）：教員研修の実施		
教員研修支援制度利用件数		英語科英語検定予備校主催研修を優先して推進し、予算の確保と受講状況を定期的に確認し都度勧誘

【千代田中学校・高等学校】

評価指標		令和 7 (2025) 年度 事業計画
第一次長期計画推進事項①：仏教精神に基づく「人格の向上」を教育活動の中心に据える		
第二期中期計画：世界の幸せをカタチにすることを目指した研究活動及び教育活動の推進		
事業計画（2025～2029年度）：教材の見直しと選定		
教材選定委員会の開催及びデジタル教材導入	①教材選定委員会を設置し、中高一貫校の教育内容に適した教材を再検討 ②各教科におけるデジタル教材の活用状況を把握し、生徒の学力向上につながる教材を選定	
事業計画（2025～2029年度）：研究活動等における指導力向上		
教員研修実施回数	教科横断や研究指導/探究指導に関して、外部の専門機関(専門家)による研修を 1 回実施	
学会発表、学術論文、もしくは全国レベルの研究活動等の成果発表件数	中学または高校で、研究活動等の成果発表を外部で実施	
事業計画（2025～2029年度）：施設・設備の見直し		
施設・設備に関するメディア掲載件数	①受験情報誌等で新館教室フロア等の更新された学習環境について掲載 ②理科室や視聴覚室の改修など、更新すべき施設の確認と計画策定	
生徒アンケート及び専門家からのヒアリングを毎年実施	生徒に対して学習環境に関するアンケートの作成と実施	

【千代田中学校・高等学校】

	評価指標	令和7(2025)年度 事業計画
第一次長期計画推進事項②：前身である千代田女学園設立者の島地黙雷先生が目指された「国際教養人の育成」を基に、国を越えた人類レベルで世界の幸せを追求するための体制構築及びそれをカタチにするために必要な環境としての難関大学への進学を可能にする指導の充実		
第二期中期計画：国内外の難関大学への進学者数（進学率）増加		
事業計画（2025～2029年度）：国公立大学進学への指導力強化		
国公立大学の志望者数	高校において地方国公立大を含めた幅広い進路選択を促す進路講話を用意	
国公立大学大学合格者数	国公立大学志望者にとって適切な模試、教材を選定し、生徒の進路実現を支援	
事業計画（2025～2029年度）：外部機関との連携による教科指導力の向上		
教員の研修参加率	①教科指導・進路指導に関して、外部の専門機関（専門家）による研修を1回実施 ②模擬授業研修会、入試問題研究会を1回実施	
国内外の難関大学合格者数	外部専門家から得た知見を実践する場として、長期休暇中の生徒対象の講習会を実施	
事業計画（2025～2029年度）：進路指導室の整備		
進路指導室の設備更新	国内外の大学に関する進路資料やデータなど幅広いリソースにアクセスできるシステムの導入	
進路指導室満足度	面談机や椅子などの備品等の入替によって、生徒が活用しやすい進路指導室に更新	
第二期中期計画：新たな価値の創造と実現を目指した実学を重視した教育環境の構築		
事業計画（2025～2029年度）：コースの新設とカリキュラムの刷新		
オンラインシラバスの公開率	全教科において研究コースと開発コースの目標設定と、それを達成するためのシラバスを作成し、少なくとも英数国については中高ともにオンラインでの公開を実現	
事業計画（2025～2029年度）：研究活動のための施設・設備の整備		
研究活動ができる環境の整備	理科室や視聴覚室の改修、蔵書の増加など、更新すべき施設・設備の確認と計画策定	
事業計画（2025～2029年度）：国内外の専門機関との連携並びに外部人材との協働		
外部機関との提携数	国内外を問わず研究活動並びに社会課題解決プロジェクトの指導をサポートする外部機関の導入を検討	
共同研究プロジェクトや社会課題解決の取組に関するメディア掲載件数	中学または高校で、研究活動または社会課題解決のための取組に関して受験情報誌等に1件掲載	

【千代田中学校・高等学校】

	評価指標	令和7(2025)年度 事業計画
第一次長期計画推進事項③：目的達成のために必要な教育コンテンツとスキームの開発並びに募集定員の充足、研究成果をはじめとする生徒の活動実績、大学合格実績の創出と、その実践の頒布		
第二期中期計画：教員の教養力の育成と改革並びに組織体制の確立		
事業計画（2025～2029年度）：組織体制の強化		
教職員数の確保	①教員採用試験のスケジュールの再検討 ②ICT支援員、実験助手、司書、進路アドバイザーの採用に向けて協議、検討	
全教員個人目標シートの作成・面談・振り返り	①年間3日の教員研修の実施 ②教員個人目標シートおよび教員評価軸の作成 ③新入職教員ならびに任期付専任教員と管理職面談の実施	
事業計画（2025～2029年度）：教員の指導力育成と次世代リーダーの育成		
教科指導、進路指導、生徒指導の各分野における次世代リーダーの育成	①外部のミドルリーダー層向けの研修の開拓と紹介 ②上記組織体制強化の評価軸を踏まえてフィードバックを行い、基幹となる分掌業務を担当する教員を選抜	
第二期中期計画：戦略的な広報活動の展開		
事業計画（2025～2029年度）：学外広報の強化		
志願者数	①説明会や体験授業会等のスケジュールと内容の見直し ②ホームページの定期的な更新	
学則定員（中学283人、高校569人）の充足率	各広報イベントでのリピート率、新規率等を可視化し、効率的かつ効果的な広報を実践	
事業計画（2025～2029年度）：外部メディアとの関係構築		
外部メディア露出回数	受験情報誌、経済紙、その他企業等の広報メディアで教育活動の実践と成果について掲載	
事業計画（2025～2029年度）：広報機材の整備		
機材の導入	①最新の広報機材導入に向けた協議、検証と導入 ②映像制作の外注業者の検討、選定	
第一次長期計画推進事項④：法人全体ベースでの組織マネジメントの構築		
第二期中期計画：実効的な組織運営とガバナンスの強化		
事業計画（2025～2029年度）：人員配置の整理		
教員配置計画に基づく人員配置	カリキュラム編成を実行し適切に教員を配当	
事業計画（2025～2029年度）：役職と責任の明確化		
役職と責任範囲の定義とガイドラインの作成	各分掌の業務内容の明確化と共有	
事業計画（2025～2029年度）：事務室業務の整理		
武蔵野中高と同レベルの業務分掌・所管	武蔵野中高と千代田中高の業務分掌の整理と業務スケジュールの管理	

【武蔵野大学附属幼稚園】

評価指標		令和7（2025）年度 事業計画
第一次長期計画推進事項①：園児が健やかに成長できる教育環境を整備する		
第二期中期計画：教育理念に基づく魅力的な教育プログラムの推進		
事業計画（2025～2029年度）：魅力的な教育プログラムの展開		
社会・地域ニーズに合致した魅力的な教育プログラムの展開	①魅力的な教育プログラムを検討 ②幼児教育学科との関係性整理並びに社会ニーズに合致した連携プログラムの検討	
事業計画（2025～2029年度）：課外活動の充実		
課外活動の延べ登録者数	①課外活動での保護者参観実施 ②英語はECC検定試験実施による充実感向上	
事業計画（2025～2029年度）：預かり保育の充実		
預かり保育の満足度向上	①保護者アンケート実施 ②預かり保育内容の検証及び充実	
預かり保育におけるST比率及び収支の適正化	①増加傾向の預かり保育におけるST比率の維持 ②預かり保育事業の収支計画の作成及び検証	
第一次長期計画推進事項②：幼稚園の円滑な運営		
第二期中期計画：園児及び保護者との信頼関係構築		
事業計画（2025～2029年度）：建学の精神の涵養及び教育目標のさらなる理解促進		
建学の精神に関する教員研修への参加	教育目標・教育内容の向上に効果的な研修受講	
事業計画（2025～2029年度）：保護者とのコミュニケーションスキルの向上		
保護者アンケートによる満足度	ドキュメンテーション利用により、園生活や課外活動の保護者への見える化及び広報展開	
コミュニケーションスキル向上のための教員研修への参加	園生活の見える化を促進する保護者とのコミュニケーション強化のための研修実施	
事業計画（2025～2029年度）：子どもの育ちの「見える化」を推進		
保育及び課外活動の参観や園生活のSNS発信数	園生活などを広報発信により地域における認知度向上	
第一次長期計画推進事項③：入園者の確保		
第二期中期計画：安定して園児を確保できる体制の構築		
事業計画（2025～2029年度）：広報活動の充実		
チラシ・ポスターの配付及びイベントや園生活のSNS発信数	広報発信を強化し、地域における認知度向上	
イベント開催回数	オープンスクールや子育て応援講座、子ども相談、園庭開放、保育参観など未就園児や近隣居住者への広報拡充	
出願者数及び園児数	①令和8年度入園募集計画を策定 ②近隣の小規模保育施設、公共施設等へのチラシ配付 ③SNSによる広報展開	
事業計画（2025～2029年度）：未就園児クラスの充実		
にこにこルーム利用者数の増加	①にこにこルームの保育内容の見直し及び広報展開 ②在園児や教職員との交流促進	
事業計画（2025～2029年度）：登降園インフラの拡充		
バス利用に関する保護者アンケート満足度	バスルートの改善検討実施	

	評価指標	令和 7 (2025) 年度 事業計画
第一次長期計画推進事項③：入園者の確保		
第二期中期計画：施設設備等の環境整備		
事業計画（2025～2029年度）：園舎・施設の整備		
	施設に関する保護者アンケート満足度	園舎改修調査報告書に基づく遊具の更新など教育環境整備

【武蔵野大学附属有明こども園】

	評価指標	令和7(2025)年度 事業計画
第一次長期計画推進事項①：大学の様々な学部と連携し園独自のカリキュラムを構築することによる園児がわくわくし、学びの楽しさを感じられる教育・保育の実践		
第二期中期計画：園児と保護者の満足度が高まる教育・保育の質の向上		
事業計画（2025～2029年度）：園内研修の充実及び園外研修の積極的受講		
園内研修年間実施回数		職員の現状を把握したうえでテーマ設定し、教育・保育の質の向上に効果的な研修を実施
園外研修年間受講回数		全職員を対象受講
キャリアアップ研修修了率		中堅職員を中心に受講
第二期中期計画：園児が自発的に遊び込み、生きる力を身につけられるよう、わくわくプログラムを実施するなどの、教育・保育環境の充実		
事業計画（2025～2029年度）：様々な学部や外部の専門家と連携し、園児が多方面にわたる事象に興味をもち、視野を広げていけるプログラムの実施と環境の整備		
わくわくプログラム年間実施回数		武蔵野大学教員をはじめとする各分野の専門家と相談し、ニーズや興味の変化に対応した魅力あるプログラムを実施
第一次長期計画推進事項②：子育て支援を中心に様々な地域貢献を実施する地域に根付いた園の実現		
第二期中期計画：子育て支援プログラムの実施等による、地域の子育て支援拠点機能の向上		
事業計画（2025～2029年度）：子育てや絵本の読み聞かせに関する講習会等の積極的な実施及びえほんのりの図書館機能強化		
子育て支援イベント年間開催数		区の地域子育て支援（マイ保育園ひろば）と連携し、月1回以上のイベント開催
えほんのり年間一般利用者数		一般利用日を週3回に増加
第一次長期計画推進事項③：次世代を担う人材育成への貢献		
第二期中期計画：教育実習生やボランティアの積極的な受け入れ		
事業計画（2025～2029年度）：実習生やボランティアへの指導をとおした人材育成と、指導にあたる職員の指導力の育成		
教育/保育実習及び保育ボランティア年間受入人数		武蔵野大学及び他大の実績校を中心に、実習受入れを働きかけ
第一次長期計画推進事項④：安定した円滑な運営を行うための園児募集		
第二期中期計画：2027年度以降の定員充足		
事業計画（2025～2029年度）：1号認定園児の継続的な定員充足		
1号認定3歳児入園者数		人口動態を把握したうえで、地域のニーズに合ったわくわくプログラム等の教育・保育サービスの展開
園児数 （収容定員280人）		人口動態を把握したうえで、地域のニーズに合ったわくわくプログラム等の教育・保育サービスの展開

【法人】

	評価指標	令和7(2025)年度 事業計画
第一次長期計画推進事項①：建学の精神の堅持及び未来への継承		
第二期中期計画：法人・教学一体の推進体制の構築		
事業計画（2025～2029年度）：仏教関連業務を担う組織・人員体制の再構築		
各設置校の仏教行事	各設置校での仏教教育部運営委員会を開催し、仏教行事の式務を掌握し、同委員会及び雪頂会議で改善案を策定	
各設置校の宗教教育企画	各設置校での仏教教育部運営委員会を開催し、仏教行事の現状の調査を行い、新たな企画を同委員会及び雪頂会議で改善案を策定	
事業計画（2025～2029年度）：SD、FDに「建学の精神」項目を定番化		
教職員の研修参加率	龍谷総合学園グループの中でも大学法人のある龍谷大学、京都女子大学に建学の精神の取組についてヒアリングを実施	
事業計画（2025～2029年度）：学内外向け仏教関係発信力強化への取組		
仏教ボランティア受入先数	仏教ボランティア受入寺院への挨拶及び日曜講演会等イベントの告知	
日曜講演会参加者数	①R7年度の日曜講演会については目標値の集客に向け、学外、学内広報を展開 ②R8年度以降の武蔵野キャンパス以外での開催に向け、調査を実施	
事業計画（2025～2029年度）：「見える化」に向けた具体的施策の立案・推進		
学生団体	大学礼拝等で学生アンケートを実施し、学生の建学の精神の理解度及び仏教への考え方を把握	
第一次長期計画推進事項②：法人経営と教学の健全なガバナンス体制の構築・維持と執行体制の強化		
第二期中期計画：ガバナンス体制の整備		
事業計画（2025～2029年度）：私立学校法改正に対応した理事・評議員・監事等の体制整備・運営の安定化		
業務の決定及び執行の権限並びに内部統制等の関連規程の定期的な整備	①改正私立学校法に基づく業務の決定及び執行の権限並びに内部統制等の関連規程の検証 ②必要に応じた業務の決定及び執行の権限並びに内部統制等の関連規程の改正等	
ガバナンス・コード	改正私立学校法に対応した改正後のガバナンス・コードの自己点検の実施・公表並びに改善が必要な項目等の課題整理及び各部署への課題対応促進	
事業計画（2025～2029年度）：大学・中高等設置校の教学ガバナンスの再構築		
関連規程の制定及び改正	教学ガバナンス体制の再構築に係る関連規程等の整備及び検証の実施。整備後、必要に応じて新たな規程制定や改正等を行い体制強化を補完	

【法人】

	評価指標	令和7(2025)年度 事業計画
第一次長期計画推進事項③：組織の活性化		
第二期中期計画：新人事制度の定着化		
事業計画（2025～2029年度）：資格別研修プログラムの体系化・制度化		
資格別の研修プログラム効果測定修了基準合格率	年間計画実施の初年度として資格別研修プログラムの実施状況の測定	
事業計画（2025～2029年度）：多面的評価を導入した人事評価制度の改革		
多面的評価による人事評価制度運用	試行として多面的評価を実施	
第二期中期計画：事務局各部署の適正人員数配置に基づく長期人事計画の策定・運用		
事業計画（2025～2029年度）：部署別人事の実態掌握強化		
常勤職員（専任、常勤嘱託）の部署別人員配置	各部署の事務職員稼働状況より、常勤職員の適正配置人数の算出を実施	
事業計画（2025～2029年度）：非常勤嘱託、派遣職員を含めた総人員計画の策定		
非常勤、派遣職員を含めた部署別人員配置	事務部門全体における人員配置について、各部署に確認し、現配属の妥当性について調査を実施	
事業計画（2025～2029年度）：HRMによる職員力の掌握と適正な人員配置		
HRMを活用した事務職員人員配置	①HRMシステムの導入 ②現状の把握と人員配置計画を見据えた分析	
事業計画（2025～2029年度）：平時におけるリモートワークの制度化		
リモートワーク平時利用のための就業規則・関連規程の整備	①多様な働き方を実践するための制度検討 ②就業規則と関連規程の見直し	
第二期中期計画③－3：目的別研修の中期計画に基づく実施		
事業計画（2025～2029年度）：ハラスメント、コンプライアンス等基本研修		
研修効果測定合格率	コンプライアンス基本研修の実施	
事業計画（2025～2029年度）：A I 等情報系、外国語、防火防災等スキル研修		
研修効果測定合格率	①テーマ別の研修の構築 ②各種スキルを必要とする対象者をピックアップした研修の実施	

【法人】

	評価指標	令和7(2025)年度 事業計画
第一次長期計画推進事項④：戦略的な広報展開		
第二期中期計画：法人広報戦略に基づく広報展開及び広報体制の強化		
事業計画（2025～2029年度）：法人広報戦略に基づく広報活動の実施と検証		
「いま注目されている・旬である」イメージ	①YouTube等のWEB広告出稿増加及び効果検証 ②学生、教員の活躍を扱うWEBコンテンツの増加及び効果検証 ③学内情報の収集のための学科との懇談実施	
「時代を切りひらいている」イメージ	①YouTube等のWEB広告出稿増加及び効果検証 ②学生、教員の活躍を扱うWEBコンテンツの増加及び効果検証 ③学内情報の収集のための学科との懇談実施	
事業計画（2025～2029年度）：認知度向上施策の実施と検証		
有識者及び中高生の父母認知率	①ネーミングライツ等の生活者の日常に入り込むような新たな広告施策の実施 ②広報・広告用キーメッセージの制作	
関東在住で進学希望の高校3年生認知率	①100周年記念事業の学生広報チームを引き継ぎ、学生目線のSNS発信強化 ②YouTube等の中高生向けのWEB広告出稿増加及び効果検証	
関東甲信越の高校から進学希望の高3生認知率	①100周年記念事業の学生広報チームを引き継ぎ、学生目線のSNS発信強化 ②YouTube等の中高生向けのWEB広告出稿増加及び効果検証	
事業計画（2025～2029年度）：各設置校の入試広報と一体化した広報戦略の展開		
関東在住で進学希望の高校3年生認知率	①入試広報戦略を武蔵野大学入試検討委員会等で審議の上、広報委員会に報告 ②入試広報と連動（デザイン、タイミング等）させた法人広報の展開	
関東甲信越の高校から進学希望の高3生認知率	①入試広報戦略を武蔵野大学入試検討委員会等で審議の上、広報委員会に報告 ②入試広報と連動（デザイン、タイミング等）させた法人広報の展開	
事業計画（2025～2029年度）：パブリシティの強化による広告とパブリシティの連動性の質向上		
取材獲得数	①記者発表会又は記者懇談会の実施 ②記者発表会、取材、プレスリリース等を通じて記者との関係を強化 ③時事との関連、ストーリー性、エキスパートの意見付随等、タイミング・内容を工夫した情報発信	
第一次長期計画推進事項⑤：創立100周年記念事業の成功を次の10年50年への長期的な展望の起点とする		
第二期中期計画：100周年記念事業から継続する事業の発展的展開		
事業計画（2025～2029年度）：S I Cの成果に基づく教学の発展的事業展開		
S I C（縁バースキャンパス）における通信制教育の施策を踏まえた通学制授業への展開	①利用した授業での実績の全学共有 ②教員への活用促進	
事業計画（2025～2029年度）：データセンソリウムの開発及びMUCVセンター・ミュージアムの開設		
データセンソリウムの開発及びMUCVセンター・ミュージアムの開設	①教員と連携し、データセンソリウムで使用する映像の初期開発 ②ミュージアムの運用を踏まえた基本設計	
事業計画（2025～2029年度）：カンファ・ツリー・ヴィレッジPJの成果物の発信と継続的な研究課題への発展		
建学の精神を具現化する研究機関の設立	設置する研究機関の在り方の検討	
4回の対話総括による書籍発刊と英語での提言	過去4回の対話を通じて得られた成果物の作成	

【法人】

【法人】

	評価指標	令和7(2025)年度 事業計画
第一次長期計画推進事項⑥：卒業生の組織化とロイヤリティ向上		
第二期中期計画：母校への関心を継続できる情報発信力の強化		
事業計画（2025～2029年度）：HP及びSNSによる卒業生向けの情報発信強化及び連絡先情報等の更新データの集約		
連絡先登録卒業生データベースの増加	9月・3月に卒業後の連絡先回答フォームによる回答依頼を実施	
事業計画（2025～2029年度）：双方向型コミュニケーションへの転換		
双方向コミュニケーションツールの開発	同窓会（むらさき会）ヘニーズの確認。施策の方向性を検討し提案	
事業計画（2025～2029年度）：同窓会の活性化に向けた若年コア会員の育成		
20代～30代世代の若手分科会の新設	現状の確認。分科会発足のための検討	
事業計画（2025～2029年度）：同窓会員の母校への関心持続に向けた企画推進		
同窓会サイトのPV増加	今の武蔵野大学がわかる魅力ある情報の発信。卒業生取材による卒業生の今を伝える	
事業計画（2025～2029年度）：新しいコンセプトでの校友会連合会の検討		
校友会連合会の新設・運営	連合会ニーズの確認と新設の必要性の再検討	
第一次長期計画推進事項⑦：財政基本理念に基づく安定的な財政基盤の確立		
第二期中期計画：財政分岐点指標に基づく財政の安定		
事業計画（2025～2029年度）：長期財政計画の継続的更新（10年間財政計画）		
長期財政10年計画	令和6年度決算を起点とした長期財政10年計画の更新	
事業計画（2025～2029年度）：長期財政シミュレーションによる財政状態の検証		
財政状態の検証	大規模投資計画策定時には、長期財政10年計画への影響を複数の資金調達方法にて検証し、財政的な裏付けがなされた計画を策定	
第二期中期計画：法人収入構造の改革		
事業計画（2025～2029年度）：資金運用の多様化		
資金運用収支差額	①委託運用による運用状況を四半期毎に監事へ報告 ②債券運用比率を増加	
事業計画（2025～2029年度）：固定資産の有効活用の検討		
本法人所有不動産に関する諸課題の解決	課題解決の方向性を示すため、本法人が所有する各校地の用途地域、容積率、市場需要等を調査	

【法人】

	評価指標	令和 7 (2025) 年度 事業計画
第一次長期計画推進事項⑧：危機管理体制の確保		
第二期中期計画：危機管理の有効性を確保した災害対応力の向上		
事業計画（2025～2029年度）：危機管理マニュアルの継続的更新		
危機管理マニュアル	更新の必要性が発生した場合は 1 カ月以内に更新版を作成し学内へ共有を実施	
事業計画（2025～2029年度）：常に携行できる危機管理マニュアル要約版の作成		
危機管理マニュアルの要約	①危機管理マニュアルの要約版を作成し教職員への公開 ②閲覧端末を限定することなく共有できる方法の検討	
事業計画（2025～2029年度）：学生、生徒、園児の安全を最優先にした危機発生時の教職員行動指針の策定		
危機発生時の教職員行動指針	①危機発生時における行動指針の策定 ②閲覧端末を限定することなく共有できる方法の検討	
事業計画（2025～2029年度）：訓練・演習等による実践力の練磨		
危機発生時をシミュレートした訓練・演習等の実施	①地域と連携した防災対策の検討・策定 ②防災マップ作成の検討 ③実技研修の実施	
第一次長期計画推進事項⑨：教育研究基盤を強化する計画的な施設整備		
第二期中期計画：武蔵野キャンパスの長期施設設備計画に基づく施設整備		
事業計画（2025～2029年度）：武蔵野キャンパスマスタープランの策定		
マスタープランに基づく整備計画の策定	武蔵野キャンパスマスタープランを整備支援会社の協力を得て、大学、武蔵野中高及び附属幼稚園と協議を重ね策定	
事業計画（2025～2029年度）：武蔵野キャンパス大学図書館の建替		
武蔵野キャンパス新大学図書館完成	定例の現場会議（設計、施工、本学）で定期的に工事の進捗を管理	
MUCV棟及び外構整備完了	定例の現場会議（設計、施工、本学）で定期的に工事の進捗を管理	
第二期中期計画：有明キャンパスの長期施設設備計画に基づく施設整備		
事業計画（2025～2029年度）：1号館・2号館・3号館の設備更新		
耐用年数を迎える受変電設備、中央監視設備、空調換気設備及び照明設備（LED化）の更新	令和9年度の工事実施に向けた業者へのヒアリングや施設設備管理業務委託先との相談の上工事方法を検討	
定期点検結果等に基づき計画的に外壁タイル補修及び給排水・消防・防犯設備等の設備を更新	1・2・3号館の壁打診検査について、業者に相談の上、令和9年度までの計画（実施方法を含む）を策定	
事業計画（2025～2029年度）：4号館の契約更新に併せた施設拡充の検討		
有明キャンパスでの体育授業実施	近隣体育施設へヒアリングを実施し、教学系部署に近隣施設の使用方法等提案、施策決定	
第二期中期計画：千代田キャンパスの長期施設設備計画に基づく施設整備		
事業計画（2025～2029年度）：計画に基づく環境整備		
施設設備の改修	年度中に設置工事の完了	

【法人】

	評価指標	令和 7 (2025) 年度 事業計画
第一次長期計画推進事項⑩：D X 推進による各設置校及び法人の現在価値の向上や新たな価値創出		
第二期中期計画：D X 推進基本計画詳細に基づくシステム構築と運用開始		
事業計画（2025～2029年度）：メタバースキャンパスの開設、機能拡充		
年間来場者延べ数		①通信制学生日常交流スペース実装 ②通信制スクーリング、募集イベント、在学中学生イベント実施 ③通学制授業及び生涯学習講座、事務スペース等での利用促進
小部屋（教室等）貸し出し数		①通信制学生日常交流スペース実装 ②通信制スクーリング、募集イベント、在学中学生イベント実施 ③通学制授業及び生涯学習講座、事務スペース等での利用促進
事業計画（2025～2029年度）：通信教育部在学生情報の S R M への移行		
在学情報を活かした卒業後のマーケティング機能拡充・運用		計画策定
クロスマーケティング機能拡充・運用		①通信—生涯学習での開始 ②同窓会—通信通学生涯学習の検討 ③通学—通信、通学—生涯学習の計画検討
在学生機能の拡充		①学修計画立案機能の実装 ②リンク集、お知らせ機能等情報発信 ③実装済機能の効果検証
事業計画（2025～2029年度）：通学制学生情報の S R M への移行		
教学システムリプレイスと連携した全学的 S R M 展開		①通学 S R M トライアルの実施（2 年目） ②教学システムリプレイス、通学 S R M トライアル実績を踏まえた令和 8 (2026) 年度の全学展開計画検討
事業計画（2025～2029年度）：学修コンシェルジュサービスの実用化		
一次応対利便性向上のためのマルチチャネル集約及び生成 A I を活用した F A Q 等の高度化		①通信制における一次応対体制（総合サポートセンター）の整備と稼働開始、効果検証 ②通信制における生成 A I を活用したチャットボットの稼働開始、効果検証
事業計画（2025～2029年度）：デジタル・ラーニング・サービスの実用化		
動画配信システムの導入		①動画配信システム要件整理完了 ②製品等見積比較、業者選定完了 ③構築完了 ※令和 8 年度は受入れテスト
動画製作体制構築の整備		①スタジオ設置場所の用途変更を常務理事会にて決定 ②スタジオ利用運用の整備
通信通学授業動画教材の商品化		①通信通学授業動画教材の生涯学習での販売可能性の調査 ②動画コンテンツの権利等確認調整 ③商品化の際の動画配信システム要件検討
事業計画（2025～2029年度）：生成 A I 等を活用した業務効率化、問い合わせ対応等のサービス向上		
通信教育課程、通学課程でのチャットボット等の A I 活用サービスの拡充		①通信制の生成 A I チャットボット稼働 ②通学制の学生支援分野での生成 A I チャットボット稼働
事務業務における A I 活用サービス		ユーザーローカル ChatAI を事務業務遂行サポートで利用
生成 A I 活用のための研修		①生成 A I 活用事例研究会の開催（年間 4 回） ② A I リテラシー向上のためのメールマガジン発行（毎週金曜日）
事業計画（2025～2029年度）：通信教育部から通学制大学院・学部・学科等への対象範囲の拡大		
通学課程のオンライン授業拡大に伴うデジタル・ラーニング・サービスシステムの活用		①動画配信システム要件整理完了 ②製品等見積比較、業者選定完了

【法人】

評価指標		令和7(2025)年度 事業計画
第一次長期計画推進事項⑩：DX推進による各設置校及び法人の現在価値の向上や新たな価値創出		
第二期中期計画：DX推進基本計画詳細に基づくシステム構築と運用開始		
事業計画（2025～2029年度）：リカレント・リスキリング事業における本格的活用		
SRMを活用したクロスマーケティング実行のための機能整備	①通信—生涯学習での開始 ②同窓会—通信通学生涯学習の検討 ③通学—通信、通学—生涯学習の計画検討	
オープンバッジ授与を通したリピーター獲得（科目等履修、生涯学習等）	①対象講座の確定 ②外部広報 ③対象者への発行	
メタバースキャンパスを活用した受講者体験の充実	①対象講座の確定 ②受講者への告知 ③外部広報	
事業計画（2025～2029年度）：法人業務のDX化を支えるインフラ整備（HRMシステム、ワークフローシステムの導入等）		
人事システムの導入支援	人事情報管理、給与管理、勤怠管理の範囲で利用開始	
ワークフロー、電子契約システムの導入支援	稟議、機器備品等申請書の範囲で利用開始	
会計システムリプレイス及び財務状況ダッシュボード構築支援	会計システムを令和9(2027)年度リプレイスに向けて計画作成及び要件整理を完了	
事業計画（2025～2029年度）：教学システムの更新		
教学システムリプレイスの実施支援	①前期で要件定義完了 ②後期で構築完了	